

[専門教育科目/看護研究]

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護研究 I	NSP35_001	必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
望月 宗一郎 他	302	s.mochizuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	看護を探究する姿勢は研究につながる。看護の質の向上・発展に研究は欠かせない。本科目では、看護における研究の目的や必要性・倫理的配慮、文献クリティック、研究のプロセス、研究計画書の作成の仕方など、看護的研究に関する基礎知識を学ぶことを目的とする。この授業は同時双方向型授業で行う。				
学習上の助言	疑問を持ったことに対して、常に調べる習慣を身につけて解決のために先行文献等を調べるなど、探求心をする事で、研究の楽しさも感じてほしい。				
教科書	看護における研究第2版 / 南裕子他編 / 日本看護協会出版会 / 2017年				
参考書	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護研究の必要性とその役割等について説明できる。	HSU(2)、NS(1)			
②	看護研究の一連のプロセスを説明することができる。	HSU(2)、NS(2)			
③	研究デザインの種類・特徴について説明できる。	HSU(2)、NS(3)			
④	研究を進める際の倫理的配慮について説明できる。	HSU(1)、NS(1)			
⑤	文献の精読を通じ、クリティックの方法が養われる。	HSU(2)、NS(4)			
⑥	主体性を持って、計画的に取り組むことができる。	HSU(5)、NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	看護研究の必要性とその役割を学ぶ。研究が看護実践の中でどう活かされているかを学ぶ。①	同時双方向型授業	教科書の第1章を予復習すること。	4	
2	研究が看護実践の中でどう活かされているかを学ぶ。②	同時双方向型授業	これまでの実習経験を振り返る。	4	
3	看護研究のプロセスと文献検討について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の第2・3章を予復習すること。	4	
4	概念枠組みと研究計画書について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の第4・6章を予復習すること。	4	
5	研究デザイン① 事例研究・文献研究の実際を知る。	同時双方向型授業	教科書の第5章を予復習すること。	4	
6	研究デザイン② 実態調査研究・実験研究の実際を知る。	同時双方向型授業	教科書の第1・5章を予復習すること。	4	
7	データの収集・分析について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の第7・8章を予復習すること。	4	
8	研究論文の評価(リサーチクリティック)方法の実際を学ぶ。①	同時双方向型授業	教科書の第9章を予復習すること。	4	
9	研究論文の評価(リサーチクリティック)方法の実際を学ぶ。② 演習オリエンテーション	同時双方向型授業	教科書の第9章を予復習すること。 興味のある文献を検索してみる。	4	
10	研究論文クリティック演習① 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	文献検索の手順を覚えておく。クリティックの特徴を学びポイントを押さえる。	4	
11	研究論文クリティック演習② 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	教員1人あたりの担当学生は4人程度とし、各領域で受け入れる最大人数は次のとおりとする。	4	
12	研究論文クリティック演習③ 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	基礎看護学 20人 (対応教員 5人) 成人看護学 12人 (対応教員 3人)	4	
13	研究論文クリティック演習④ 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	小児看護学 4人 (対応教員 1人) 母性看護学 8人 (対応教員 2人)	4	
14	研究論文クリティック演習⑤ 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	精神看護学 8人 (対応教員 2人) 老年看護学 8人 (対応教員 2人)	4	
15	研究論文クリティック演習⑥ 研究論文のクリティックについて学ぶ。	同時双方向型授業	在宅・公衆衛生看護学 16人 (対応教員 4人)	4	
試	試験・課題レポートの記述				

[専門教育科目/看護研究]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	30	0	20	0	100
総合力指標	知識・技術力	20	10	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	20	10	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	20	0	20
問題を発見・解決する力		10	10	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	主に講義部分で学んだ内容を評価する。選択式の試験問題とする。				担当教員が評価し、必要に応じ学生にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	A4用紙2枚以内を担当教員の指示に従い提出する。クリティックした文献のタイトル・学番号・学生氏名・指導教員名を文頭に記す。				担当教員が評価し、必要に応じ学生にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①		学習ノート・文献・配布資料等をファイリングし、自己管理していく。また、日々の学習態度、レポート作成への取り組み姿勢を含め、総合的に評価する。				必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
担当教員：◎望月宗一郎(科目責任者) 小野寺幸子(副責任者) 石野徳子 窪川理英 森川三郎 平尾眞智子 藤井充 山崎洋子 小林美雪 中溝道子 溝口孝美 山田真衣 佐野宏一朗 田中深雪 堀口まり子 渡邊美樹 伊丹幸子 久島萌 山崎さやか 吉岡睦世							
・講義部分は次に示す教員が行う。 ◎望月宗一郎(科目責任者) 小野寺幸子(副責任者) 石野徳子 窪川理英 森川三郎							
・演習部分は、上記教員以外に次に示す教員が指導に関わる。なお、教員の補助者として助手が指導する場合もある。 平尾眞智子 藤井充 山崎洋子 小林美雪 中溝道子 溝口孝美 山田真衣 佐野宏一朗 田中深雪 堀口まり子 渡邊美樹 伊丹幸子 久島萌 山崎さやか 吉岡睦世							
・本シラバスは一定の方針を示したものであり、詳細については領域の裁量に委ねられる。							
・レポート提出や成果発表の詳細等は指導教員の指示に従うこと。							
・自ら進んで指導を受ける心構えで臨み、計画的に進めること。							
・主体的に指導教員と連絡を取り、積極的な態度で臨むことを重んじる。							
・担当する教員は、看護職としての実務経験を活かしてこの科目を教授する。							
・一部 Teams を使った同時双方向型授業を行うため、通信容量無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。							
・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって、シラバスの内容が一部変更となる可能性がある。							